

2010年度 エコツアー in 長谷



事務局 (インターン生／田邊千英、室屋孟門)

9月25日、26日と今年で10回目となるエコツアーが長野県伊那市長谷で行われました。今回は会員・外部の方・事務局を合わせて17名の参加がありました。当日は台風が接近しており、雨が心配されましたが、幸運にも天候に恵まれ、長谷の自然や文化に触れることができました。

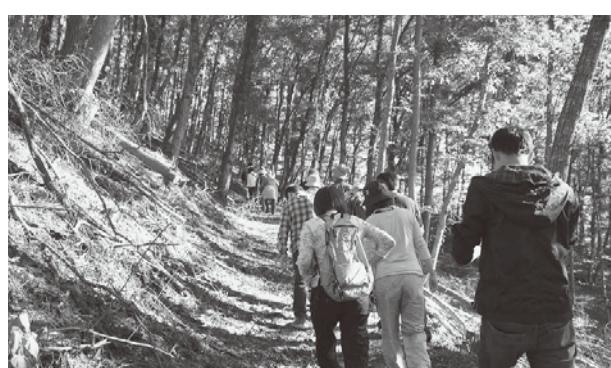
〈1日目〉

一日目は、中尾座にて着替えを済ませると早速、稲刈りへ向かいました。台風の接近で天候が心配されましたが、長谷の空にはすがすがしい青空が広がりました。トラックの荷台に乗って中村田んぼに向かうと、猛暑の影響で茎が折れんばかりに稲穂が実り、その間をトンボが飛び交い、秋の訪れを感じました。

中村さんからレクチャーを受けて、いざ刈り取り作業に。初めて稲刈りを体験する方は、ざくざくと稲を刈る触感の心地よさを楽しんでいました。常連の方はとてもすばやく稲を刈り取っており、まるで農家さながらでした。

稲刈りを終えて中尾座に帰る途中、中村さんから尹良親王碑の前で歌舞伎のもととなった歴史の話をうかがいました。また、中尾座では、かつらや小道具、回り舞台など歌舞伎の舞台裏を見せていただきました。

そして、古道・秋葉街道の散策へ。小川を丸太で渡ったり、ロープを伝いながら細い道を通ったりと、長谷の自然を満喫しながらの散策でした。また、白衣観音や孝行猿の話など長谷の歴史や文



化にも觸れました。

入野谷で温泉につかり、疲れをほぐしたあとは、長谷の方々を交えて懇親会を行いました。懇親会では、長谷総合支所長の中山さんに長谷で古くから愛唱されているざんざ節を、中村さんに歌舞伎の口上を披露していただきました。

懇親会の中締め後は星を見に外へ。都会ではなかなか見る機会の無い星空に参加者全員、ゆったりとした時間を過ごしました。

〈2日目〉

二日目は、朝から中尾座でミニワークショップを行いました。今年のミニワークショップのテーマは「環境文明社会」における「利他」についてでした（詳しくは後述）。

ミニワークショップのあとは、郷土料理の調理体験に。食文化研究会の小松さんや現地スタッフの方々から指導を受けながら、最後の仕上げを参加者全員で行いました。12時前には料理が完成し、お焼きや豚汁、漬物など長谷の新鮮な野菜を使った料理が食卓に並びました。素朴で懐かしい味わいに、参加者全員、舌鼓を打ちました。

昼食後は、長谷に古くから伝わるざんざ節を小松さんに教わりながら参加者全員で輪になって踊りました。その他にもきんによんによなどを踊り、身体を動かして長谷の伝統文化を感じました。

ざんざ節を踊った後に、まだ時間の余裕があったので、中村さんに歌舞伎の口上を教えてもらったり、歌舞伎のワンシーンを披露してもらったりしました。



駅に向かう途中も、道の駅アルプスむらに立ち寄り、お土産を買ったり、ソフトクリームを食べたりと最後の最後まで長谷を満喫しました。

二日間という短い時間でしたが、長谷の自然、歴史・文化、そして人柄に触れることのできた、中身の詰まったエコツアーとなりました。この場を借りて、現地スタッフの方々、参加者の皆様に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

〈ミニワークショップ〉

二日目の午前には、「環境文明社会について語る」と題して、ミニワークショップを行いました。エコツアー参加者と現地の方々を交えて、「利他」をテーマに議論しました。利他是本当に必要な価値なのだろうか、その障害は何だろうか、実現するにはどうすべきだろうか等について、1時間半ほど話し合いました。

まず、自分だけ、今日だけのことを考えたり、短視眼的だったりすると、いずれ失敗するという意見が出ました。現地の方からも、地方でも今さえ自己さえ良ければ良いという社会になって来ているという意見が出ました。他に、ミャンマーの小学校で子供たちが石板を使っていたので、毎年文房具を送っているが、先生が後に没収してしまう例も紹介されました。こちらが利他の心でやっていても、相手に受け取る心があるかどうか。こういう部分は非常に難しいが、行動しないと何も起こらないから行動すべき、という意見がありました。

仕事で人事を担当しておられる参加者からは、昔は年功序列だったけれど今は評価制度が導入されて、各々が自分の評価を上げたいのために、利他が難しくなっている、また、利他の語感には施すというイメージが強く、現代と馴染まない氣があるので、互恵とか、流行りのwin-winのような表現を取り入れても良いかも知れないとの意見が

ありました。外務省にお勤めの方から、個人レベルであれば利他は相手の喜ぶ姿が見えやすいけれど、国と国の中や組織間で、愛を持って利他の行動ができるか悩ましいとの指摘もありました。

若者からは、中長期的視点は大事だけれど、どうしても今日や明日の生活を重視してしまいがちになるとの正直な意見。将来の事を考えていても、変化の激しい時代だから、その通りにいかない、若者は先を考えて行動しない人が多くなっているという意見もありました。その他、日本人が海外の土地を買って儲けていることは知っていたけれど、逆に外国人が日本の土地を買っていることを知って初めて、現地の人の気持ちが分かった、利他と言っても自分に問題が降りかかるかないと、他人のことはなかなか分からぬという意見がありました。それに対して、自分に降りかかるくとも、他人の立場をイメージする力があれば良いが、それが現代では欠如しているという意見、さらに、今後の展望として、「環境文明社会」という言葉を次の世代に引き継いでいく、何度も繰り返し言っていくなど、どう普及させるかという議論も出ました。

様々な年代、バックグラウンドを持った方々が一堂に会して、「他人を利用する」ことについて真剣に議論している姿は、そのまま環境文明社会の縮図のように思えました。私も参加者の皆様を見習って、先を見据えた行動をしていきたいと思います。

貴重な機会をありがとうございました。

